

例会報告 Rotary



2022-2023年度
RIテーマ

第2698回例会
令和5年3月10日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
大垣共立銀行高山支店 4F
- 会長 垣内 秀文
- 幹事 大村 貴之
- 会報委員長 中島 一成

イマジン
ロータリー 国際奉仕委員会

<会長の時間>

2022-23年度も気がつけば残り4ヶ月で年明けとともに加速度的に会長任期満了が近づいています、つい先日エレベーターにご一緒した狹土さんが「今、ロータリーが楽しくてしょうがないやろ」とニコニコしながら仰いましたが...とんでもありません!かなり四苦八苦しています...特に知識、見識乏しい私にとって「会長の時間」は正に呪縛であり、その時間を過ぎる金曜日の午後1時過ぎにようやく解放されます。そして次の金曜日が近づくに連れ囚われの身となる、又その繰り返しです。

そんな私の拙い「会長の時間」ですが、皆さんお気づきのように俗な話題ばかりで肝心のロータリーの情報量が少なく、最後に苦し紛れにロータリーに託せる感が否めないのが現状です。

先日地区の岩田勝美研修委員会委員長をお招きした例会時の卓話の中で「会長の時間」はロータリーの情報を話すべきとのお言葉も有りましたので、本当に今更ではございますが月間テーマに沿い、月に一回はロータリーの事を重点的に内容は貧弱になりますが、お話ししたいと思います。

そこで3月は「水と衛生月間」です、少し水のことを考えてみたいと思います。私たちはこんにち、水を当たり前の様に毎日毎回飲み且つ様々なものに活用しています、また時には垂れ流しにしている事もあり、それは水が無限に使えるような錯覚に陥っている可能性さえあるといえます。しかしご周知の様に地球上において、そうでない地域が沢山あります。

特に発展途上国では慢性的な水不足で、衛生状態が悪い水の飲用などで少なくとも毎年数億人の子どもたちが病気にかかっており、90秒に1人が水に関連した病気で亡くなっています。

地球の面積の3分の2は水であるとされており、またその97%が海水であり、真水と言えるものはわずか3%しかありません。しかも私たちが生活用水として利用できる水は、世界にある水のたった0.08%で有るとされています。

水が手に入りづらい地域においては、水を汲みに遠くまで歩いて行き多くの時間とエネルギーを費やしているのが、当然学校になかなか通えないし、仕事もなかなか出来ない状況にあります。特に子どもや女性がこの水汲みに行くケースが多いかと思えます。

きれいな水は人間の基本的ニーズの一つで、人々がより健康で実りある生活を送ることを実現可能にします。また、不衛生な水を利用することにより身体が触まれ、病気にかかり更には治療費がかさむ上に、働けないために収入を得られない、また十分な治療できないために死に至ることも多々あります。

しかし世界の水問題は我々にとって決して無縁ではありません、世界の水問題が深刻化することにより、海外において十分な食物を生産することができなくなり、食物の大部分を輸入で賄っている日本は必要とする食料が入らなくなります。

日本では水不足を感じることはあまりありませんが、これらを考えますと水は日本人にとっても決して他人ごと、他国のことではありません。

3月の2630地区ガバナー月信で高橋伸治ガバナーはこう述べられていました、2021年に気象に関する研究をされていた真鍋淑郎氏が地球温暖化予測に関する研究成果が認められノーベル賞を受賞されました。彼の話によると今一番心配なのは、この大気汚染

の状態が続くと世界中で水不足が起こり、渇水問題が発生するとの事でした。

我が国日本は少子高齢化で人口減少に歯止めがかからない状況であるのに反し、経済協力開発機構によると、世界の人口は2050年に2019年比で26%増えて97億人に増える事となり、水需要は2000年比で5割増えると予測しています。その結果、加速する気候変動や人口増・都市化を背景に、2050年には39億人が水不足に陥ると予測しています。こうした水不足により、世界では水を巡る争いが各地で起こり、水不足は貧困や暴力を助長し、各地で戦争やテロも頻繁に引き起こされることになるであろうと警鐘を鳴らしています。

ロータリー財団は、重点分野の一つとして「水と衛生」に関する問題に取り組んできました。安全な水と衛生設備の利用はすべての人の権利であり、汚染水が原因の病気や、命を落とす事は、私達が解決しなければならない大きな問題と捉えています。

そこでRIは井戸を掘ったり雨水を貯蔵する設備を作ったり、下水や汚水タンクとつながった水洗トイレを提供すると同時に、手洗いや、その他の衛生の習慣を推進しているところです。

ジュニア・ジョーンズRI会長も、「みんなが安全な水を使える世界をイマジン想像して下さい。そして、こうした大きな夢を抱くなら、それを実現させる責任は自分たちにあります」と述べられています。

是非皆さんも「水と衛生」月間にあたり、いま水不足に苦しんでいる世界中の人たちのことを思い、みんなが衛生的な水がいつでも、何処でも、手に入れる事が出来る世界を想像し、その実現を目指すならばロータリアンの力とつながりを活かし、世界中のすべての人々が、安全・安心できれいな水を持続的に得るために、私たちロータリアンも水の重要性について改めて考えていかなければなりません。

<幹事報告>

◎はぐるま会会長より

・第203回高はぐるま会開催のご案内

日時 4月9日(日)
12:29 スタート
会場 飛騨高山C. C.
会費 8,000円
表彰式 山陣にて18:30~



<受贈誌>

(株) オクトン (ロータリーカタログNo43)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
31名	-	31名	36名	86.11%

例会報告

<本日のプログラム> 国際奉仕委員会

委員長 長瀬 達三

本日の例会は、高山市役所より、飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長の永田 友和さんをお招きし「高山市の国際化への取組について」と題してお話をいただきましたと存じます。

実のところ、私は、当クラブの国際奉仕委員長という役職でありながら、その事業においては前例踏襲主義を貫き、委員長職を大過なくやり過ごそうと考えておりました。

しかし、毎年当クラブのなけなしの会費を支出している「飛騨高山国際協会」や「デンバー友好協会」という団体が、どのような団体であるのかまったく知らず、デンバーって北欧の国か？（デンマークに響きが似ているから？）ぐらいの認識でしたので、ロータリアンとしてこれではまずかろうと思ひ、どのような団体でどのような活動をしており、これまでの当クラブとの関りや、今後のかわり方についてきちんと整理しなければならぬと考え、担当例会で永田課長にお越しいただく運びとなりました。

国際関係は今後より一層重要な問題です。飛騨高山のことだけ、日本国内の事だけを考えていられるような時代ではありません。そこで、まずは自分たちが本拠を置く高山市の国際的な取り組みを知り、直接的間接的に国際化に関わることができればと思います。

永田さんのプロフィールですが、平成8年高山市役所入庁。平成27年に観光庁派遣、平成29年に日本貿易振興機構派遣後、平成31年商工観光部商工課商工係長。令和3年4月より現職でいらっしやいます。それでは永田課長、よろしくお願ひいたします。



「高山市の国際化への取組について」

高山市飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長 永田 友和 様
皆さん、こんにちは。高山市海外戦略課の永田友和です。本日は、お招きいただき、誠にありがとうございます。今ほど長瀬委員長からと発破をかけられたのかなと思っているんですが、国際化社会が迫りくる中で、高山市は市民の皆様と一緒に国際化の取り組みをしてまいりました。本日その取り組みというものを皆さんに知っていただける機会だと思いますので、拙い説明かと思いますが、どうかご了承いただければと思います。

高山市役所の海外戦略課で事務局を持っております協会として、飛騨高山国際協会と高山デンバー友好協会というのがございます。この二つの協会につきましては、先ほど長瀬委員長からの話もありました通り会員となつていただきまして、会費も頂戴しているところでございます。本日はその二つの協会を中心にご説明させていただければと思います。本日は、まず高山はどんな都市と交流しているのか、二つ目が飛騨高山国際協会の活動の紹介、三つ目が高山デンバー友好協会の紹介、最後に一言お伝えさせていただければと思っております。

では最初に高山市と交流のある海外の都市をご紹介しますと思います。一つ目はアメリカコロラド州のデンバー市。この都市との交流はよくご存じの方がほとんどかと思ひます。デンバー市はコロ

ラド州の州都で、野球はコロラドロッキーズ、バスケットではデンバーナゲッツの本拠地です。こちらは1960年に姉妹都市提携を行い今年で63年目と、長きにわたり親交を深めている都市です。二つ目は、中国の雲南省麗江市。独特の民族文化、街並み歴史があり、麗江古城というお城がありますが、その旧市街地が世界遺産に登録されています。2002年に友好都市提携を行ない昨年20周年を迎えたところです。次にルーマニアのシビウ市です。旧市街地は赤い瓦屋根の民家が建ち並び、中世の面影を残すルーマニアで最も美しい都市と言われております。こちらは2012年に友好都市提携を行ない10周年を迎えました。四つ目がペルーのウルバンポ郡、世界遺産のマチュピチュがある地域です。2013年に友好都市提携を行い、こちらは今年10周年を迎えます。五つ目は中国雲南省昆明市。雲南省の州都で人口700万人を超える大都市です。中国南方カルストというユネスコの世界自然遺産がある地域です。姉妹友好都市としてはこの五都市ですが、その他にも協力協定を結んでいる都市があります。一つ目はフランスのコルマル市。木製の骨組みとパステルカラーの土壁が美しい町で、2014年に経済観光協力協定を結びました。二つ目はラオスのルアンパバーン市です。かつてのランサン王国の王都で、お寺等を中心とする美しい街並みが世界遺産に登録されており、2016年に協力交流に関する協定書を締結いたしました。三つ目がベトナムのフエ市です。かつてのグエン朝当時の王宮や寺院も多数残され、世界文化遺産に登録されており、2018年に友好協力関係に関する覚書を締結いたしました。最後に、韓国の安東市。儒教文化を代表する書院や寺社など、多くの木造建築物が昔ながらの姿で保存されている地域です。市内にあるパフェ村という地域は世界遺産にも登録されており、昨年2022年に友好交流促進意向書をオンラインを介して取り交わしました。

このように世界各地様々な都市と交流を行っておりますが、こんなにたくさんの都市と交流しているのかと驚かれた方も多いかと思います。なぜ高山市が国際交流を行っているかですけれど、発端としては昭和61年、海外との交流を積極的に進めるために国際観光都市宣言を行ないました。その第一歩として、昭和62年飛騨高山国際協会が設立されております。目的は、高山市民が国際的に学術及び文化等幅広い交流を積極的に推進し、国際化に対応できる文化都市づくりと国際親善を図り、そしてその取り組みが世界平和に寄与すること、としております。この目的に沿う形で様々な都市と交流を図っております。飛騨高山国際協会は市長が会長となっており、高山西ロータリークラブ様にも理事という立場でご参画いただいております。協会事務局自体は、先ほど申し上げました通り、私どもの方で預からせていただいて、様々な活動を行っております。

その活動の一つとして市民外国語講座・日本語講座というものがございます。市民の外国人とのコミュニケーション能力の向上という目的で、英語、中国語、韓国語のクラスを設けています。また日本に在住されている外国人の方に日本語を学んでいただけるよう、日本語の講座3クラスも実施しております。上半期と下半期に分かれまして、延べ人数ですが上半期で113名、下半期103名の方に参加いただきました。

また毎年、英語スピーチコンテストを実施しており、主に中高生にご参加いただいております。例年は英語スピーチコンテストの上位成績者は市民海外派遣事業に参加していただいておりますが、ここの所は新型コロナウイルス感染症の影響によりセントレアツアーを実施しました。

その他、海外の文化、風習などを知っていただく取り組みとして、アメリカ国籍の国際交流員が、市民と一緒にグラハムクラッカーハウス作りを行いました。小学生の参加者は国際交流員と英語で会話を楽しんでいました。また、新型コロナウイルス感染防止のため、渡航が規制される中、姉妹都市のデンバー市、友好都市の麗江市とシビウ市の写真パネル展を開催し、市民の方に各都市を思い出さずしていただくきっかけとなりました。

例会報告

つづきまして高山・デンバー友好協会についてご紹介いたします。こちらは昭和52年、に国際間の理解と両市の市民相互の親善友好を密接にし、あわせて文化産業の発展に資するためコロラド州内各機関との各種親善事業を計画推進することにより、協会が真に意義のある民間相互交流の窓口となるということを目的として設立されました。会長は昔からデンバーとの友好にご尽力いただいている平川治さん、個人会員42名、家族会員が17家族、団体会員として高山西ロータリー様も含め17団体にご協力いただいています。

デンバー市は、アメリカの中でも近代的な都市の一つです。でありながら、昔ながらの美しいビクトリア朝の建物ですとか、ガス灯、馬車、ユニークな西部歴史博物館や西部時代の豪邸など、歴史的な部分も融合した都市でもあります。国立公園や国立自然林が非常に多く、3000m級の山々も1000以上あると言われ、アメリカでも最大かつ最も美しい山岳自然地帯を誇る州の一つと言われている。デンバーとの提携の経緯は、1960年に万国郵便会議に出席したデンバーの代表者の方から、日本の都市と姉妹都市になりたいため適当な市を紹介して欲しいというお話がありまして、その話が郵政省を通じて名古屋郵便局から高山市の方にお勧めがあったとの事です。デンバー市は先ほど申しました通り山岳の中にありますので、高山と類似する部分があるのではないかとという事で、1960年7月29日に姉妹都市提携を結びました。

これまで何度も訪問と受け入れを行っております。写真の通り1964年には当時の岩本高山市長がデンバーを訪問、2015年姉妹都市提携55周年の際はマイケルハンコック市長が高山に来訪と、市長同士も相互訪問しています。本当は60周年の節目で交流ができれば良かったんですが、その年はちょうど2020年ですのでコロナの最中ということで、オンラインの式典開催となりました。ただ、マイケル市長は今月の27日にお越しいただけるというお話ですので、西ロータリー様の方にも案内をさせていただいておりますが、歓迎レセプション等開催を計画しております。

高校生の相互派遣事業というものも1983年から行っております。一年おきに高山からデンバー、翌年はデンバーから高山に高校生をそれぞれホームステイさせていくプロジェクトを続けております。今現在はこのコロナで中止しますが、非常に多くの高校生の方に、高山に滞在して高山を知って頂くと言うものです。ちなみに先ほどのマイケルハンコック市長も、実は高校生の時にこの事業を使って高山でホームステイをされたご経験もございます。

また先程お話させて頂いた飛騨高山国際協会主催の英語スピーチコンテスト上位成績者などを対象とした市民海外派遣事業、こちらの訪問先としては3カ所ほどありますが、2012年(H24年)よりデンバー市も対象としています。

併せましてコロラド大学病院への研修医派遣事業を2013年より実施しています。高山市とデンバー市の医療関係者同士のネットワークの構築、外国の医療現場を体験することによって新たな経験・知識を研修医が習得することを目的とし、2019年までに26名の研修医を高山市から派遣しています。高山で外国人観光客の方が増えるのに伴い外国人の急患の方も増える中、海外の現場を知る事で高山での対応に活かしたいという事で、病院の先生からすぐご期待していただいている事業です。

さらに2019年には高山工業高等学校の生徒4名、教諭2名、関係者2名がデンバー市を訪問し、「高山祭屋台」模型修繕がなされました。この模型は、1964年に高山市からデンバー市へ寄贈した実物の約2/3の大きさのもので、経年劣化が進んでおりました。事前に関係者と教諭がデンバー市を訪問し下見を行い、必要なパーツ等を確認した上で同年10月の修繕へと繋げたものです。

このような取り組みに対し、日本と米国の友好関係促進及び米国における対日理解の促進に多大な貢献をしたとして、高山・デンバー友好協会は令和2年7月29日付で外務省表彰を受賞しました。最後になりますが、海外戦略課の業務として、一つは今申し上げ

ました国際交流、その他には海外からのお客様の誘客、もうひとつは海外への販路拡大の取り組み。これらを同時に行なっています。高山市の策定する海外戦略は、その三つを含んでいる状態ではあるんですが、海外戦略の意義を「世界の活力を呼び込み、地域経済の活性化につなげる取組であるとともに、国籍や民族などが異なる人が互いの違いを認識し、市民と外国人が共存できる、多文化共生に対する意識を高める取組」であるとしています。海外と経済的な部分、海外からのお客様に来ていただいたりして地域経済を活性化させるという取り組みが一つございますが、もう一つやはり海外の方々と接することで、市民の皆様方の多文化共生に対する意識というものが高まるということを期待して位置づけているところがございます。

皆様方のご支援のおかげで、飛騨高山国際協会と高山デンバー友好協会は活動を続けていくことが出来ていると思っております。今後も国際交流へ貢献する取り組みというものをしっかり続けて参りたいと思いますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひいたします。ご静聴ありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

高山市 飛騨高山プロモーション戦略部海外戦略課長 永田 友和様、お忙しい中お越し頂き有難うございます。卓話をよろしくお願ひいたします。オープン例会に参加いただき岩畑様、島様、平様ありがとうございます。例会を楽しんで下さい。

●塚本 直人さん

高山市役所 永田課長の来訪を歓迎いたします。毎月意見交換を行っている連携協定の会議では大変お世話になっています。5年目を迎える今年度は、インバウンドの安心安全をさらにしっかりとした態勢をつくりたいですね。卓話を楽しみにしています。いつもありがとうございます。

●挾土 貞吉さん

会報に私の顔写真と皆勤の記事があり、「やって見せ、言っただけで、誉めてやらねば人は動かじ」という山本五十六の言葉を思い出してニコニコへ。

●折茂 謙一さん

3月7日は東京在住の妻の知り合いから頼まれて、アイルランドの若手起業家二人を、医学生の子が高山案内をしてくれました。夜は松喜すし、久しぶりの外食でした。翌8日は妻が高山案内の途中で深い溝に全身ストンと落ちたようですが、かすり傷ひとつありませんでした。まさに神に感謝です。

●田中 晶洋さん

経済産業省の推進する健康経緯営優良法人認定で、ブライトスタッフ株式会社が昨年に続き認定していただきました。しかも今年是全国中小企業の上位500社だけが認定されるブライト500に認定していただきました。社員だけでなく経営者も健康である事が求められる時代ですので、心を引き締めて健康維持に気を付けたいと思います。

●富岡 恒重さん

4月1日に秋田への異動を命じられまして、誠に残念ですが高山を離れることになりました。皆様には大変お世話になりました。ロータリアンの志を持って、次の仕事も邁進します！

●伊藤 松寿さん、岡田 賛三さん、田近 毅さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、鴻野 幸泰さん、向井 公規さん、杉山 和宏さん、松田 康弘さん、堀 幸一郎さん
いよいよWBCが開幕しました。初戦は大谷翔平選手の二刀流、ヌートバー選手などの活躍で勝ちました。本日はダルビッシュ有の登板です。宿敵韓国を打ち破れ！！今回は役者が勢揃いしました。この勢いで目指せ優勝！！そしてコロナも花粉症も吹き飛ばせ！！